



新株予約権発行によるファイナンスに 関する補足説明資料

Chordia Therapeutics株式会社
(証券コード：190A)

2025年9月5日

免責事項

- 本資料は、投資家の皆様に対する情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、米国、日本国またはそれ以外の一切の法域における有価証券の売付けの申込みまたは買付けの申込みの勧誘を構成するものではありません。
- 米国、日本国またはそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録もしくは届出またはこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集または販売を行うことはできません。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。
- 将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。
- 将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。
- 本資料の記載内容及び使用した画像、写真、イラスト等について、当社の書面による事前の同意なしに、複製、複写、転載、転用等の二次利用を行う事を固く禁止します。

目次

1.	会社概況	P.	4
2.	ファイナンスの目的	P.	8
3.	ファイナンスの概要	P.	14

会社概要

●2017年10月に創業し、2024年6月に東証グロース市場に上場



会社名	Chordia Therapeutics株式会社
証券コード	190A
設立日	2017年10月12日
代表者	代表取締役CEO 三宅 洋
本社所在地	神奈川県藤沢市村岡東2-26-1
社員数	23名
筆頭株主	武田薬品工業（約15%）

Tomorrow is Another Day

明日に希望を感じる社会の実現

「日本発」「世界初」のこれまでにない新しい抗がん薬を、
一日でも早く患者様のもとに。

———— Mission ————

We are passionate to deliver first in class cancer drugs to patients.

First in Class 抗がん薬を創る

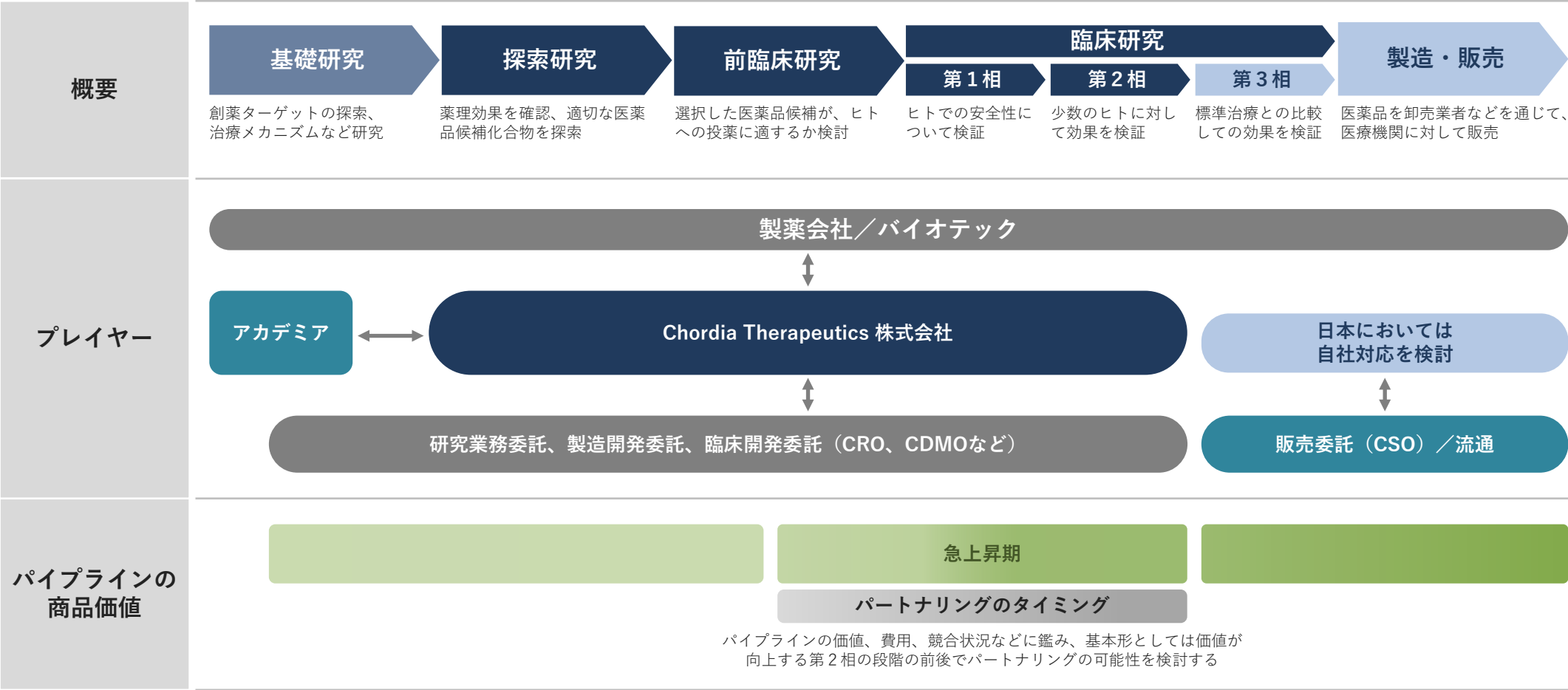
———— 2030 Vision ————

To be an R&D oriented pharmaceutical company based in Japan.

日本発の研究開発型の製薬会社になる

臨床POCを確立したパイプラインをもとに高利益なビジネスを目指す

●探索研究から臨床研究までをコアビジネスとし、国内の製造・販売については自社で行うことを視野にいてビジネスを展開する



rogocekibではリスクを取って自社開発・販売を目指す

	標的	開発コード	一般名称	主な適用がん種	開発ステージ	現時点での 想定オプション
①	CLK阻害薬	CTX-712	rogocekib	急性骨髄性白血病(AML)、 骨髄異形成症候群(MDS)、 卵巣がん、その他固形がん	日本第1相試験終了、 米国第1/2相試験中	自社開発・販売 (日本国内)
②	MALT1阻害薬	CTX-177		リンパ系腫瘍	米国第1相試験中	ライセンス導出
③	CDK12阻害薬	CTX-439		固形がん	前臨床試験終了済み	ライセンス導出
④	GCN2阻害薬	開発コード なし		固形がん、血液がん	前臨床試験	ライセンス導出
⑤	非公開	開発コード なし		固形がん、血液がん	前臨床試験	未定

rogocekibを自社開発・販売出来た際には、ライセンス導入も含めてパイプライン拡大を検討する

ファイナンスの目的

- 当社はCLK阻害薬 rogocekib の開発を自社で進めています。日本国内での第1相臨床試験を終え、現在は、世界最大の医薬品市場を持つ米国にて再発又は難治性の急性骨髄性白血病と骨髄異形成症候群を対象とした第1/2相臨床試験を実施中です。
- 2021年に米国FDAから発出されたProject Optimus（抗がん薬の開発における用量設定の最適化を目的としたガイダンス）に対しては、他社の対応状況も鑑みながら当社内で検討を続けていましたが、この度、臨床試験プロトコルの修正を行い、試験全体での症例組入れ数は当初予定の170例から225例へと55例増える計画となりました。このプロトコル変更は、将来的な米国での薬事承認獲得に向けての対応であり、rogocekibの価値最大化のためには必要と考える判断でございます。
- さらには、世界最大の医薬品市場を有する米国での薬事承認を目指してOptimusに対応することで得られる経験やノウハウは、当社の臨床開発能力を強化することにもつながり、中長期的に当社の企業価値の最大化にも貢献するものと考えております。
- rogocekibの開発には、2024年6月の株式上場時の調達資金を活用してきましたが、試験規模の拡大に伴い、新たな資金調達を実施することにいたしました。
- rogocekibの開発の進捗に関しましては、2026年中の国際学会において発表する予定でございます。また、第2相試験の開始予定は2027年に、承認申請予定時期は2028年に変更となります。

P.10 日本試験の成績

P.11 Optimus対応

P.13
米国市場について

P.14
ファイナンスの概要

P.12
開発マイルストーン

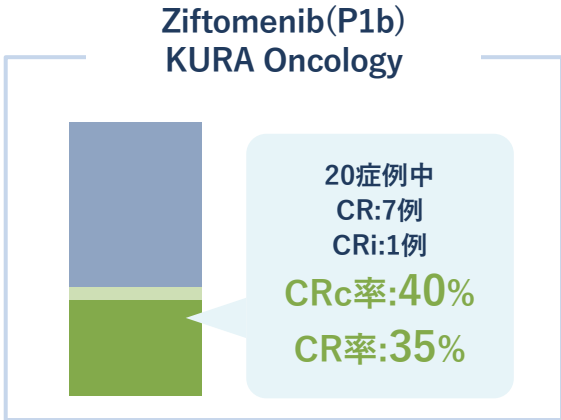
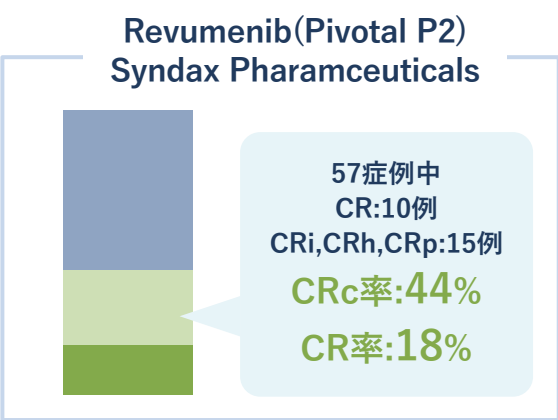
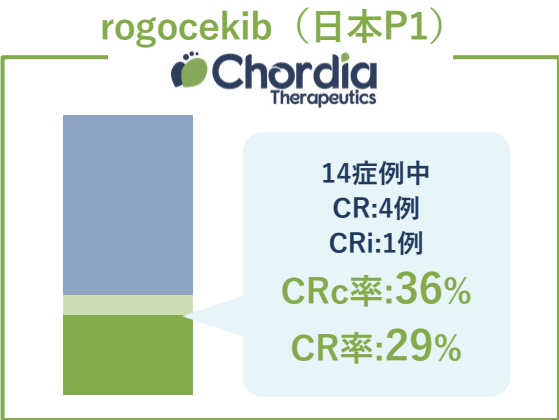
資金使途

具体的な使途	支出予定時期
①rogocekibの第1 / 2相臨床試験のうち、拡大コホート実施に係る費用 拡大コホートでは、用量漸増コホートの成績から選択する複数の用量と用法を比較検討する試験を実施して、第2相の推奨用量・用法を決定する計画です。	2026年8月期2Q ～2027年8月期3Q
②rogocekibの第1 / 2相臨床試験のうち、薬物相互作用の検討に係る費用 主にCYP3A代謝酵素の活性を阻害する抗真菌薬と併用する場合の影響を検討します。	2026年8月期4Q ～2027年8月期4Q

rogocekibは日本で実施した第1相臨床試験でPOC確認済み

●単剤で承認または承認申請間近の治療薬とも比肩し得る成績。現在は、米国のAMLでの症例数を追加していくことに注力

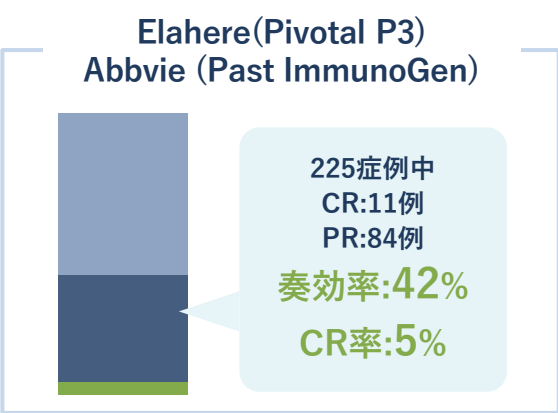
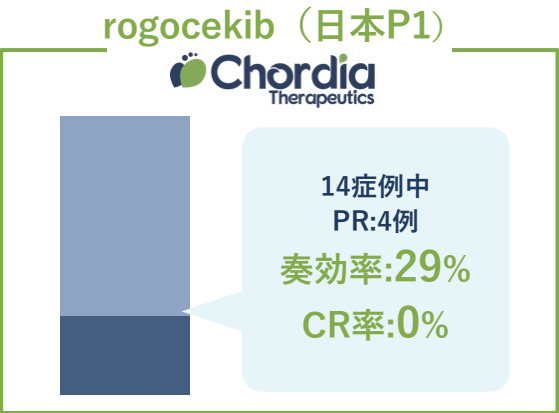
AML



2024年に第2相結果で米国承認

承認申請用第2相試験中

卵巣がん



2024年に米国承認

- CR (固形がんおよび血液がん)
- がん細胞が体内からなくなった正常な状態
- CRc (血液がんのみ)
- がん細胞が一時的に体内からなくなった状態。正常血液細胞の回復は問わない
- PR (固形がんのみ)
- 標的病変の径の和が30%以上減少した状態

- : CR
- : CRc
- : PR (固形)
- : 奏効なし

FDA Guidance Project Optimus への対応

- Project Optimusは、既承認の抗がん薬において、毒性や忍容性の問題で承認された用量では使用継続が困難な事例が見受けられることを背景にしてFDAより提唱された、抗がん薬の開発における用量設定の最適化を目的としたガイダンスです。
- 用法・用量の設定について、第1相臨床試験でより幅広く検討することが促されています。

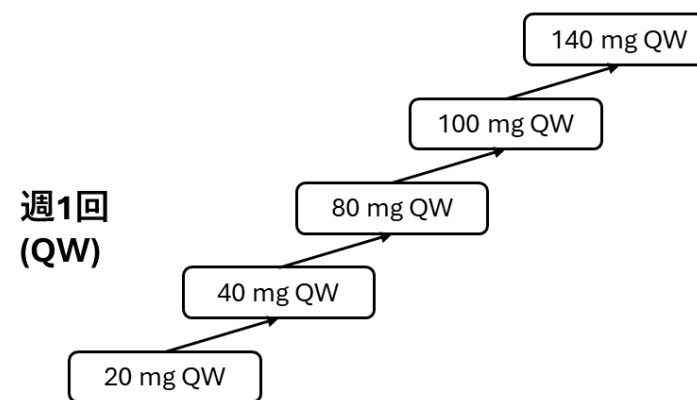
Guidanceの主たる内容

- 科学的で統合的な用法・用量の設定の重要性
 - 臨床試験で幅広い用法・用量の検討
 - PK, PD, 用量反応解析の活用
 - 非臨床試験データの活用

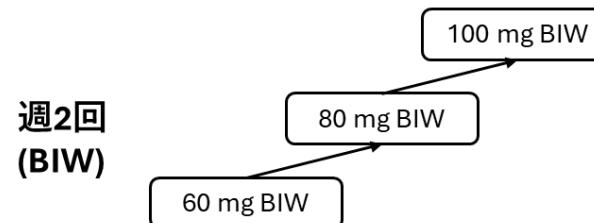
当社の対応

- 科学的で統合的な用法・用量の設定の重要性
 - 週1回に加えて週2回の用法の検討も行う
 - 拡大コホートで複数の用法・用量の比較検討を行う

用量漸増パート
N= 18-30 (用量ごとにN = 3-6)



N= 12-18 (用量ごとにN = 3-6)



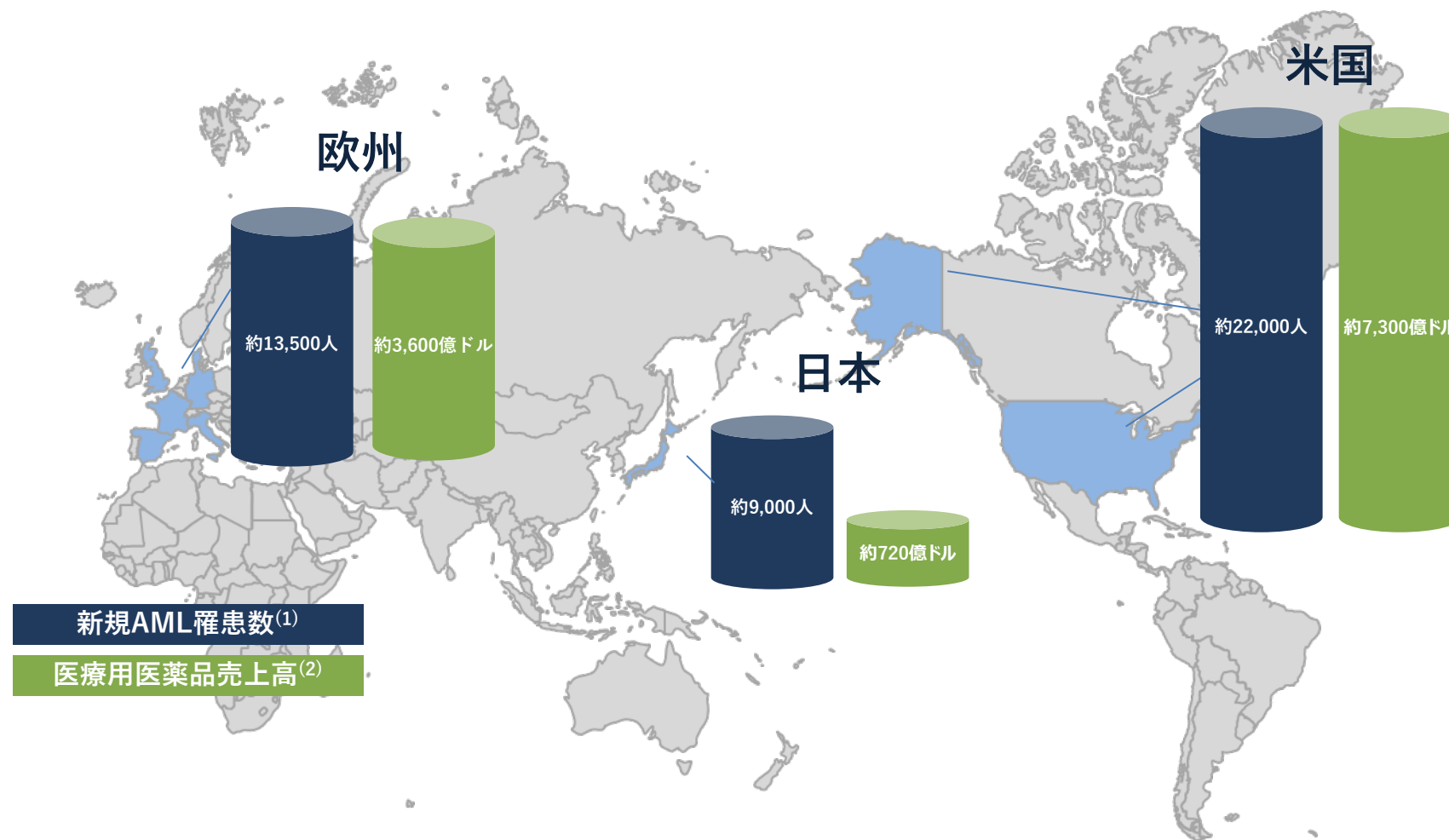
拡大パート
N=60~70を想定
(Nは症例数)

rogocekibの開発マイルストーン

開発マイルストーン	変更前	変更後
米国における第 1 相臨床試験中間成績発表	2025年下半年期	2026年中期
第 2 相臨床試験開始	2025年下半年期	2027年中期
販売承認申請	2026~2028年	2028年後期

世界の医薬品売上高とAML罹患数

- 当社は世界最大の医薬品市場を有する米国でのrogocekibの販売を目指す



(1) Global Data2020による、2020年時点の実績値を記載
(2) 日本製薬工業協会 DATA BOOK 2025に収録された2023年のデータを記載

ファイナンスの概要

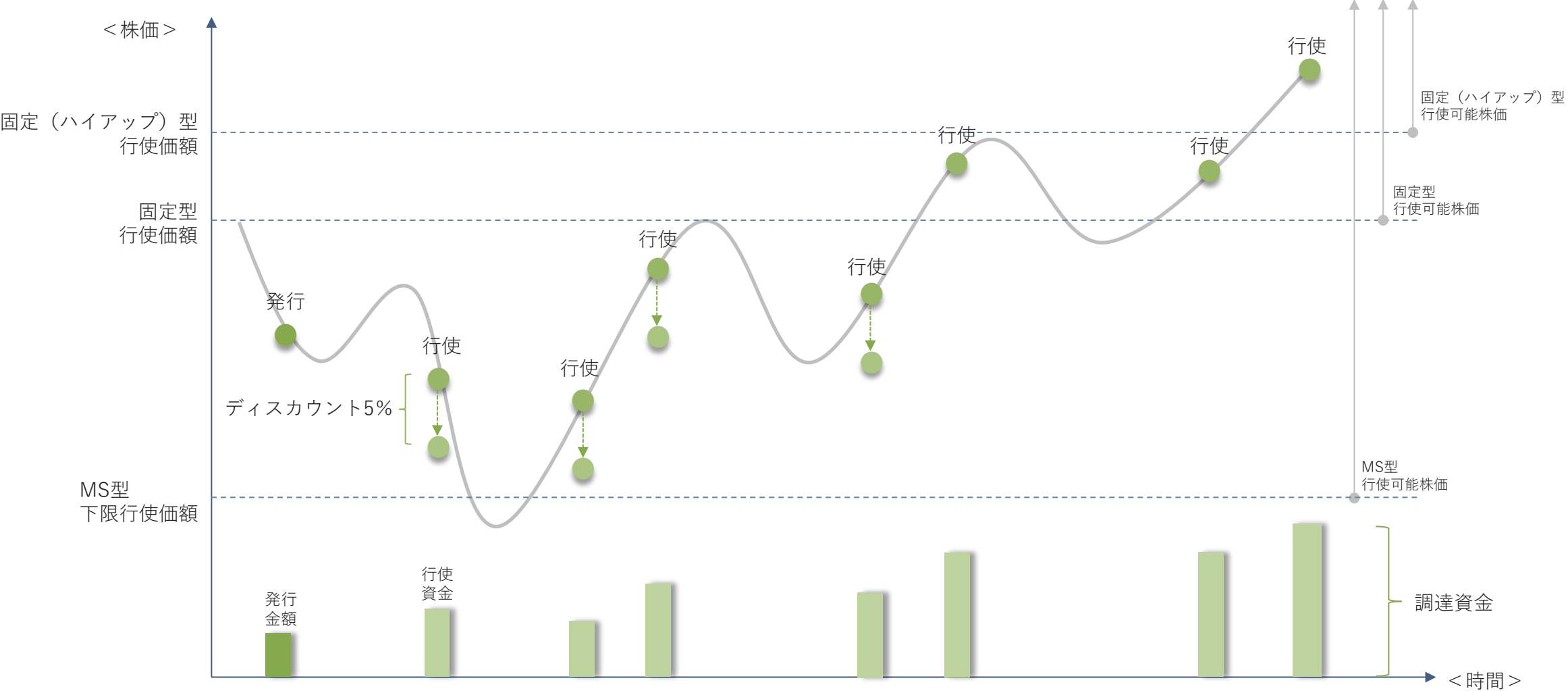
● ストラクチャーの異なる 3 本の新株予約権を発行

	第9回 MS型	第10回 固定型	第11回 固定（ハイアップ）型
ファイナンス形態	第三者割当 / 新株予約権（行使価額修正型）	第三者割当 / 新株予約権（固定型）	第三者割当 / 新株予約権（固定型）
割当先	株式会社 S B I 証券		
新株予約権の個数 / 目的株式数	103,200 個 / 総株式数 10,320,000 株	34,400 個 / 総株式数 3,440,000 株	34,400 個 / 総株式数 3,440,000 株
当初行使価額 / 固定行使価額	175 円 9月4日終値の100%	175 円 9月4日終値の100%	210 円 9月4日終値の120%
行使価額の修正 (MS型)	前日終値の95%に行使価額を修正	—	
下限行使価額	105 円 9月4日終値の60%	—	
総調達予定額	17.2 億円 当初行使価額の95%前提 10.9 億円 下限行使価額前提	6.0 億円	7.2 億円
権利行使可能期間	2 年間	2 年間	3 年間
発行価額	新株予約権1個当たり72 円	新株予約権1個当たり 45 円	新株予約権1個当たり 41 円
希釈化率※1/ 希薄化率※2	希釈化率 14.96%/ 希薄化率 13.01%	希釈化率 4.99%/ 希薄化率 4.75%	希釈化率 4.99%/ 希薄化率 4.75%
合計希釈化率 / 合計希薄化率	希釈化率 24.93%/ 希薄化率 19.96%		
資金使途	rogocekib の第1/2相臨床試験のうち、拡大コホート実施および薬物相互作用の検討に係る費用		

※1 希釈化率＝新株予約権の目的株式数÷完全議決権株式数（単元未満株式を除く）
※2 希薄化率＝新株予約権の目的株式数÷（完全議決権株式数＋新株予約権の目的株式数）

ファイナンスのイメージ

- 割当先の行使に伴って資金調達が進む



注 1) 上記は資金調達進捗のイメージであり、株価推移や割当先の行使動向については実際と異なります。
注 2) 当社は行使可能期間にある新株予約権につき、行使要請及び行使停止指示が可能です。

